

# ねっとわーく



■授業改善プロジェクト：田宮先生・渡辺先生 土田先生、授業研お疲れ様でした(^\_^) 22. 7. 5 No.13

6月30日の計画訪問時における、授業改善プロジェクトで、田宮先生、渡辺先生、土田先生が授業を提供してくださいました。それぞれ、事後研等で話題になったこと等の記録もご提出いただきありがとうございました。(現在まとめ中で、後日、焦点を絞ってお知らせします。)

それぞれの先生方の授業から、たくさんのことを学ばさせていただきました。ありがとうございました。

## □田宮先生の授業から

問題を自分のものとする(必要感を生む)ために、「教える段階」の中で、子どもたちとのやり取りを重視したそうです。また、グレーゾーンの子にも配慮した、視覚に訴える資料提示や板書など、  
 ⑤所々に田宮マジックがあったということで、参観したかったなと思いました。

事後研でも話題になったそうですが、この「教える部分」は、昨年よりも話題になっています。というのは、丁寧すぎると時間が足りなくなるし、かといって、必要感のないままでは、子どもたちの乗りが悪い。ここをどう打開していくか…。授業の4段階はベースとしながらも、児童の実態に応じて、見直しも必要なのかもしれない。このあたりは、次の機会に…。



## □渡辺先生の授業から



正直、びっくりしました！角の組み合わせ、15度ずつ変化していくんですね！！いいなあと思ったのは、ここです。つまり最初に、この値を予測しておいて、できるかどうかチャレンジ！というくだり。通常の角の組み合わせよりも「見つけてやるぞ」という挑戦意欲が子どもたちに、わいていたのではないのでしょうか。ここら辺の教材研究および子どもの意欲喚起は匠技だなと思いました。実質、この場面が10分(予定では20分)だったので、もう少し活動時間が確保できれば…。ということは、やはり前段の教える部分の切り詰めが必要なのか、もしくは先述したように、4段階よりもよいものがあるのかどうか…。考えどころです。

## □土田先生の授業から

教える段階を究極まで切り詰め、本時のねらい(三角形の内角の和が180度であることをつかっての説明力)にせまるために、考えさせる時間を十分確保できていたと思いました。自分もそうなのですが、本研究のスタイルだと、どうしても時間に追われる感じなのですが、今回の授業では、タイムスケジュールが匠技と言える完璧さでした。それでいて、子どもたちは、たっぷりと五角形の内角の和を求めていましたし、DVD化しては(^\_^)と思ったほどです。

教えることと考えさせることが、土田先生の中でブレていないことが、こうしたすっきりした授業になったのだと思いました。子どもたちも満足感を味わえた授業だったのではないのでしょうか。



裏に、参考までに、横浜本町小のスタイルを掲載しました。

いかと、改めて自分たちの授業を見直すきっかけとなりました。

どの子ども「じっくり考える」ことができるようにするには、「教師があらかじめ教えるべきことはきちんと教えていくことが大事なのではないか」と考えた私たちは、「授業の中で教えること・考えさせること」を明確にした授業づくり、『教えて考えさせる授業』に取り組むことにしました。そして、子どもたち一人一人が自ら考え、「分かった、できた」という満足感や成就感を感じ、さらには、先の学習に対して見通しをもって、自ら問題解決に取り組むような子どもたちを育てたいと考えました。

## 2 自ら学びを高める子を育てる授業 【それは、教えて考えさせる授業】

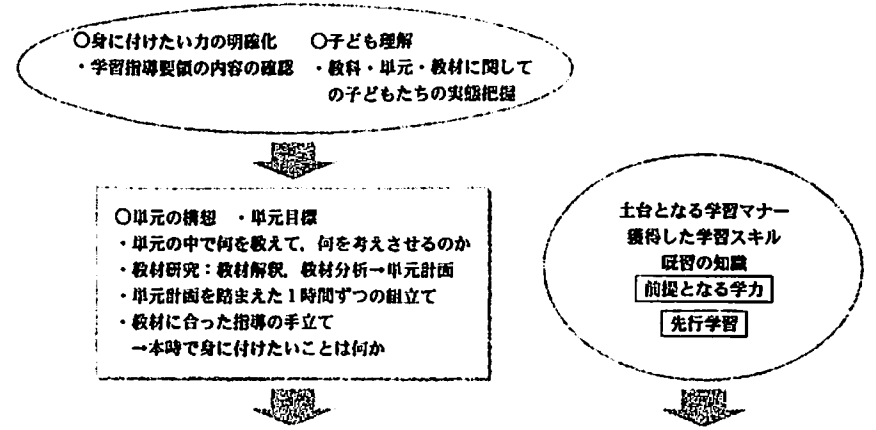
「教えて考えさせる授業」と言うと、子どもが受動的に教えられることを待っているように受け取られがちですが、実際はそうではありません。

子ども自身が、この授業（単元）を通して何ができるようになるのかが分かり、見通しをもって計画的に取り組み、自己評価できるようになることが「自ら学びを高める子」の育成につながると考えます。

そのためには、教師が一人一人の子どもの学習状況を捉え、どのような力を付けていくのを見極めて、手立てを講じることが重要です。

「教えて考えさせる授業」とは、「教師が子どもの実態を的確に把握し、子ども自身が学習を進めるに当たって分かっているなければならないことは何かを見極め、そのことを全員に共通して教え、それを手がかりとしてどの子ども問題解決に向けてじっくり考えることができるようにする授業」と捉えています。そうすることによって、一人一人の子どもが問題解決に向けてじっくり考えることができます。また、子どもたち同士が互いに説明し合ったり、考えを伝え合ったりして、自らの考えを広げたり深めたりできるようにするための時間を生み出していくことが大切と考えています。

### <本校の授業づくりの基本型>



### <身に付けたい力→本時のねらいの明確化→教えること、考えさせることは何か>

|                            | 教師  | 子ども  |
|----------------------------|---|--|
| み<br>つ<br>め<br>る<br>5<br>分 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすく説明する</li> <li>・実演、実物を見せる</li> <li>・映像、写真を見せる</li> <li>・デジタルコンテンツを使う</li> <li>・例示、例題を解く</li> <li>・教科書、資料で確認する</li> <li>・調べ方等を提示する</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「課題」の把握・理解</li> <li>・「学習の方法」の把握・理解</li> <li>・「学習に必要な知識」の理解</li> </ul>  |
| い<br>ち<br>じ<br>び<br>5<br>分 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの様子を見とり、教師がもう一度例示したり、全体に確認・補足したりする</li> <li>・個に応じた指導をする</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々での問題解決</li> <li>・「学び合い」</li> <li>・＜協同思考＞</li> <li>・「どうして？」「理由は…」</li> <li>・<b>子どもと子どもの関係</b></li> <li>・発展課題</li> </ul>             |
| た<br>ま<br>め<br>5<br>分      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りの視点を教える</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>1時間の振り返り</li> <li>・＜自己評価・相互評価＞</li> <li>・「分かったこと」「分からないこと」</li> <li>・「友達へのアドバイス」</li> <li>・「先生への質問」</li> <li>・「次に学習したいこと」等</li> </ul> |

次時へ

学校改革推進室  
自ら学びを高める子を育てる  
教えて考えさせる授業  
～横浜本町小の挑戦～  
明治四書